

## 妙高市小教研の研究部（理科）の活動報告

### 1 はじめに

妙高市教育研究会では、学校数が少なく小規模校が多いという地域の特色を生かし、重点部会を設置し全会員が一丸となって研究推進することで教育的成果を上げてきた。

本年度は、「学力向上」「心の教育」「体力向上」「総合的学習」「人権教育、同和教育」「特別支援教育」の6部会を設置し研究を進めている。したがって、「理科」に焦点化した部会は設定していないが、理科部では、市教委や他の指導・研究組織との連携を通して理科教育の振興を目指している。

### 2 活動の実際

#### (1) 夏の一斉研修 平成23年8月18日(木) 13:20~16:45

会場 新井ふれあい会館・新井総合コミュニティーセンター、勤労者研修センター

内容 ① 学力向上にかかわる全体研修(全員)

○「わかる授業づくり～県WEB配信問題の有効活用～」

講師 上越教育事務所 支援第2課長 横山 正夫 様

② 新教育課程研究集会伝達講習Ⅰ 道徳、特活、総合(全員)

③ 新教育課程研究集会伝達講習Ⅱ <理科> (小・中学校理科担当者)

#### (2) 県小研指定研究：新井小学校理科研究大会 平成23年9月28日(木) 9:30~16:00

研究主題 「言葉と体験を一体化させる理科・生活科の創造」

各校の理科・生活科担当者が出席し、全体会、講演会及び授業検討会に参加する。

「みんなで理科をやりましょう」という西山義則校長の挨拶で始まった研究大会。当校では、全担任が理科を担当（当市の担任による理科担当率は52%程度）する。理科を核に据えながら、子供の思考力・表現力を発揮・充実させ言葉と体験の一体化を目指す。生活科をはじめ全年が授業公開。上越教育大学や理科センター等の機関と協働で研究を進めてきたこともあり、磨き抜かれた教材・子供研究に裏打ちされた、確かに子供が育っていることが実感できる授業であった。そして、一番の感動は職員の皆さんの立ち居振る舞い。実に堂々として自信に満ちている。研究実践を通して育ったのは、子供ばかりではなかった。意欲と情熱のある職員が育つ学校に、職員自らが変えてきていたのである…。



< 参観者の感想から一部抜粋して掲載 >

#### (3) 市教育委員会等、他理科関係団体との連携・協力

○上越地区理科教育センター研究協議会事業 6月11日(土) 笹ヶ峰 夢見平

○宿泊野外研修会～島巡検 粟島を訪ねて～(上越科学技術教育研究会) 8月7日(日)～8日(月)

○第7回妙高市児童生徒科学研究発表会(妙高市理科教育センター) 10月4日(火)

○第50回教職員理科研究発表会(上越科学技術教育研究会) 11月2日(水) フォッサマグナミュージアム

○上越の理科を語る会(上越科学技術教育研究会) 12月4日(日) 高陽荘

○妙高市教育委員会 「自然体験マスタープラン」への会員の極的な参加

野菜栽培、野外炊飯、源流体験、植物研修、用水巡検、物作り、スキー研修等